

平成26年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成26年9月30日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 桑原 安江, 大森 憲,
位高 光司, 山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

1 開会

2 報告

(1) 平成25年度財務諸表の承認及び業務実績評価について

- 医療の質及びサービスの質の向上に関する事項の「患者の視点, 患者の利益の優先」「患者サービスの向上に関すること」の評価がBからAになっており, また, 講評でもご意見箱, 市民モニター会議の取り組みや患者満足度調査の「大変満足度」「満足」の評価が大幅に増加しているとあった。具体的には, どういった項目の満足度が向上しているのか。
 - ・ 新館整備に伴う療養環境の向上や利便施設の充実などのハード面や職員のきめ細かな対応等のソフト面でも評価が高くなった。サービス向上委員会を月2回開催しており, 患者さんからの様々な意見に的確に対応するといった地道な改善努力が満足度の向上に繋がっているのではないかと分析している。
- サービス向上に対して, 職員への指導や教育は行っているのか。
 - ・ ご意見箱の意見は, 対象部署だけでなく, 全部署の現状や課題を調査し, 改善策を検討している。回答については, 必ず全職員にフィードバックしている。
 - ・ 多職種連携によるカンファレンス等も直接患者さんのケアや診療に生かされている。
 - ・ ご意見内容も苦言から感謝の言葉に変化しており, そのような統計結果についても職員にフィードバックしている。
- 二次救急と三次救急の違いは何か。
 - ・ 救急医療には, 一次, 二次, 三次があり, 一次から三次になるに従い, 重症の救急患者を受入れる。一次は, 帰宅可能患者に対するもので, 救急車だけでなくあらゆる状態の患者を幅広く受け入れる。二次は, 一次で対応不可能な入院や手術, 比較的高度な治療に対応する。三次は, 集中治療室に入院する患者に対応するもので, 救命救急機能及び重篤な疾患に特化した施設である。
 - ・ 当院が三次救急医療を目指すということは, 救命救急センターとしての役割を果たすべく努力をしていくということである。
- コンプライアンスの確保の項目が「B」であるが。
 - ・ コンプライアンスに関して, 昨年度から今年度にかけて整備を進めている。中期計画終了時には, 「A」になるよう取り組んでいる。
- 京都には拠点的な病院がいくつかあるが, 患者さんの地域的な特徴はあるか。
 - ・ 当院は右京区, 中京区, 下京区の患者さんが入院, 外来共に6割を占めている。
- 病院の特性を市民にPRする広報が必要でないか。
 - ・ 救急医療, 外科系の泌尿器科を中心とした先進医療, がん医療のPRが必要であると感じている。京都市立病院機構として, 広報機能を強化しなければならない。
 - ・ 一般市民向け広報誌「やすらぎ」を発行した。院内だけでなく, 市役所や区役所等にも配架している。

- 機能強化型訪問看護ステーションの具体的なイメージは。
 - ・ 機能強化型訪問看護ステーションは、24時間対応、同一敷地内に居宅介護支援事業所を持つこと等が施設基準として定められている。
 - ・ 京北病院の訪問看護ステーションはすでに24時間対応しており、現在は居宅介護支援事業所設置に向けて取り組んでいるところである。
 - ・ 在宅療養支援病院、機能強化型訪問看護ステーションは、地域医療の拠点となる京北病院が最優先に取り組まなければならないことである。
- 資産の有効活用という項目があるが「資産」とは何か。
 - ・ 医療機器であり、稼働率等から費用対効果を評価している。

(2) 第1四半期決算及び取組状況について

- 市立病院の給与費が予算より少ないが、変動要因があるのか。
 - ・ 法人化により、看護師の増員や委託からの直接雇用化の取組を進めているところで、多めに見積もっている。
- 収益は伸びているが、キャッシュはどうか。
 - ・ 平成39年度までの長期収支の試算では、平成33年度以降からキャッシュが増加に転じる見通しである。

(3) 経営状況月次報告

- 京北病院は低調な動き。人口動態はどうか。
 - ・ 訪問看護等の在宅系のサービスでは件数が伸び、入院入所系が減っている。今年度は中期計画最終年度であり、目標達成に向け、取組を進める。
 - ・ 世帯数に大きな変動は見られないが、人口は漸減傾向が続いている。
- 在宅への機能を向上させ、かつ訪問看護ステーションを活用し、在宅の生活を維持継続できるように努力した結果、入院と老健の利用率が減っているのか。
 - ・ 人口から推測すると、京北地域外への患者流出も多いのではないかと分析している。
 - ・ 在宅医療をさらに充実させることで、入院増加につながるはず。
 - ・ 認定看護師（特に皮膚・排泄ケア）を京北病院の訪問看護に関与させるなど、市立病院のリソースも活用していく。
- 京北病院と市立病院が同一法人で一体的に運営されていることの広報等が必要ではないか。
 - ・ 市立病院の電子カルテシステムの更新に合わせて、京北病院にも導入し、一体運営の取組を進めている。
 - ・ 京北住民だけでなく、京都市民全体へ市立病院とのつながりが強いということの意識付けが必要である。
- 京北地域の住民アンケートを行ったことはあるのか。アンケートによって、取組を知らせることができ、意識してもらうことにもつながる。
 - ・ 平成19年度、全戸対象にニーズを把握するためアンケートを実施しているのみである。
- 京都府内他病院の紹介率はどのくらいか。
 - ・ 第一日赤、第二日赤、京都医療センターは約80%で、市立病院よりも高い水準にある。
 - ・ 患者さんに「市立病院を紹介してもらってよかった」という言葉を届けてもらえるよう地道な努力が大切である。

4 閉会